

経営比較分析表（令和5年度決算）

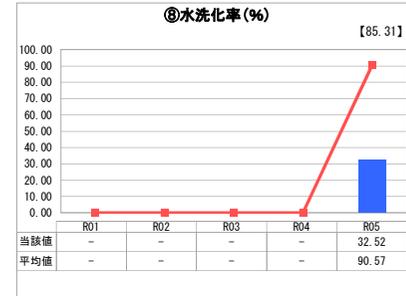
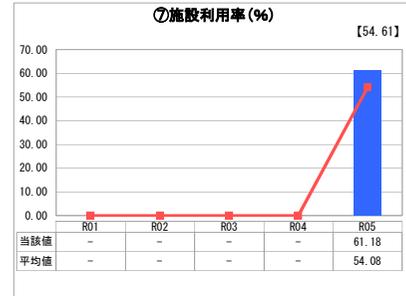
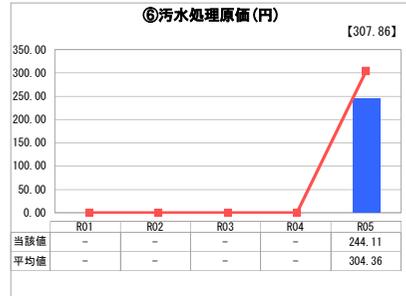
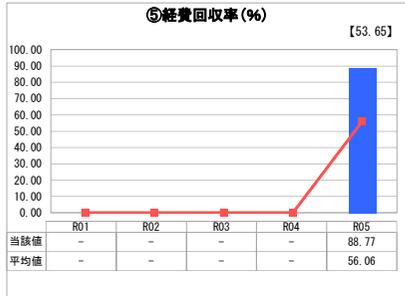
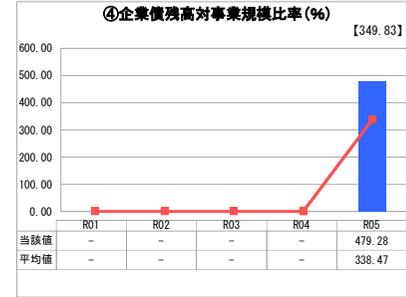
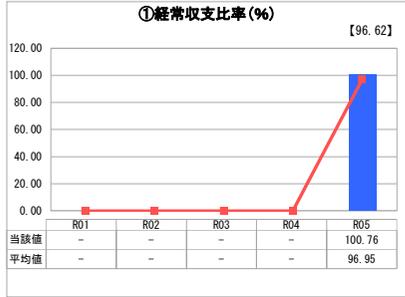
和歌山県 有田川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	54.94	2.43	100.00	4,400

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,412	351.84	72.23
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
615	13.68	44.96

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②累積欠損金比率
経常収支比率が100%を超えていることから、赤字は生じておらず累積欠損金比率も生じていない。

③流動比率
令和5年度は93.43%と1年以内に支払わなければならない負債に対し、未収金を含めた流動資産が不足している。足りないものについては一般会計からの繰り出しにより賅っている状況である。

④企業債残高対事業規模比率
令和5年度は479.28%と平均値より上回っている。

⑤経費回収率
令和5年度は88.77%を料金収入で回収すべき経費を随っているが、不足分については一般会計からの繰り入れにより賅っている。

⑥汚水処理原価
令和5年度は有収水量1m³あたり244.11円となり平均値より下回っているが、今後、経年劣化による改修等により維持管理費が高むことが予測されるので計画的に見直していきたい。

⑦施設利用率
令和5年度は61.18%となっているが、今後人口減少に伴う加入者および処理水量の減によるオーバースペックとならないよう注視しなければならない。

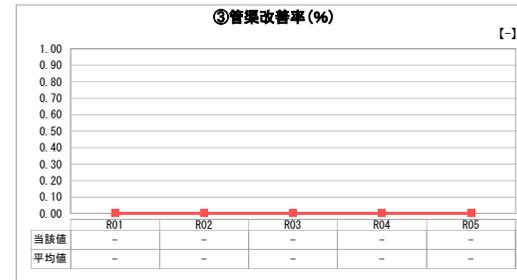
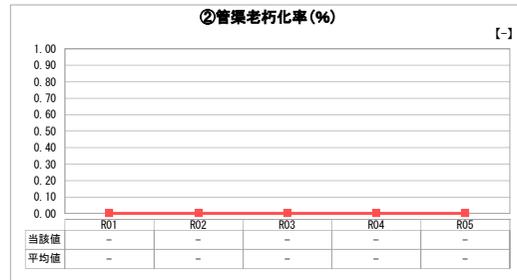
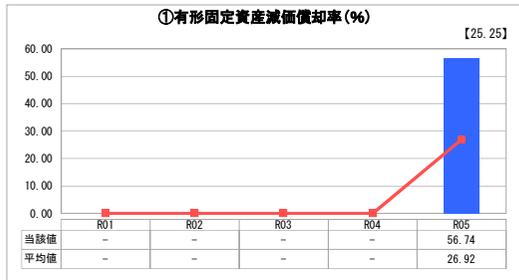
⑧水洗化率
32.52%となっているが、今後、人口減少に伴う加入者の自然減が見込まれ水洗化率も緩やかではあるが年々下がることが懸念されている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
令和5年度は設置している浄化槽の平均ではあるが、56.74%と耐用年数の折り返しを少し進んだ状態にしていることが分かる。当町では、法適用の際に残存価格ではなく取得時から減価償却を行ったため平均値を上回っている。

②管渠老朽化率、③管渠改善率
合併浄化槽による処理方式であり、管渠は整備していないことから管渠老朽化率および管渠改善率は0%である。

2. 老朽化の状況



全体総括

有田川町の特定地域生活排水処理事業は、平成16年度から平成19年度にかけて5地区で整備した。また、令和5年度より公営企業法の財務適用を行い、経営改善に取り組んでいる。区域内人口が徐々に減少してきているなか、市町村型浄化槽設置住宅が空き家等となり使用されなくなることが懸念される。また、将来にわたり施設の機能保全に努めることはもとより、今後は老朽化に伴う修繕費、建設改良費等の費用増加が予想されることから、財源確保を行っていかねばならないと考える。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。